

**令和 4 年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書**

団体名 恵庭市（都道府県：北海道）

1.当該地域の情報(令和 4 年 3 月現在)

地域の課題	・2015 年まで 230～240 名で推移していた在住外国人数が、市内の技能実習生を中心に 3 年ほどで倍増した。他方、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、在住外国人数は減少し、令和 4 年 3 月末で 466 名となった。令和 4 年度については、外国人材受入れ企業などへのヒアリングより、増加傾向となる見通し。 ・技能実習生以外にも、日本人の配偶者（技能実習生として当初滞在していた後に日本人と国際結婚した者を含む）や仕事などで滞在する家族帯同者、留学を経てそのまま地元企業などに就職する者など多様な在留者も微増ではあるが、増加傾向にある。 ・国籍別でみると、2015 年までは、中国、韓国・朝鮮が半分以上を占めていたが、ここ数年はフィリピン、ベトナム、台湾、ネパールなどアジアを中心に多国籍化している。 ・在留目的、国籍の多様化により、地域での受け入れ対応も多様性を求められているなか、外国人も暮らしやすく活躍できる多文化共生のまちづくりの取り組みのさらなる推進が課題。 ・コミュニケーション支援、特に日本語習得支援と地域住民との交流の機会についての要望が寄せられている。
在住外国人数 外国人比率	在住外国人数：466 人、＜恵庭市人口 70,033 人、外国人比率 0.67%＞ （2022 年 3 月 31 日現在）
在住外国人の 状況	【主な国籍】 ※上位 10 件までと各人数（2022 年 3 月 31 日現在） 1)ベトナム 176 名 2)フィリピン 104 名 3)中国 60 名 4)韓国 38 名 5)ネパール 23 名 6)台湾 13 名 7)インドネシア 6 名 8)朝鮮 5 名 9)米国 5 名 10)英国 4 名 【在留資格】 ※上位 10 件までと各人数（2022 年 4 月 1 日現在） 1)技能実習 2 号口 155 名 2)特定技能 1 号 65 名 3)永住者 52 名 4)特定活動 33 名 4)技術・人文・国際 33 名 6)日本人配偶者 30 名 7)特別永住者 28 名 8)技能実習 3 号口 19 名 9)家族滞在 15 名 10)留学 13 名 【滞在年数・在留期間などの状況】 在留期間は、技能実習生及び特定技能は制度上の理由で 1～5 年間、留学生は 2～4 年間が中心。その他の在留資格の外国人については、滞在年数・在留期間は様々。
在住外国人の 日本語教育の現状	受入れ団体（学校及び企業）で実施している日本語教育以外で、市内で日本語を学べる場所はない。そのため、日本語教育をしている団体に属さない外国人、又は受入れ先の勉強だけでは足りないという外国人が地域で学びたい場合、自学学習あるいは往復 2,000 円近い交通費をかけて札幌市内のボランティア団体の教室へ通う必要があるが、往復 1 時間以上の時間と高額な交通費をかけて日本語を学ぶのは難しい。そのため、市内で日本語を学習する場所・機会への要望がある。

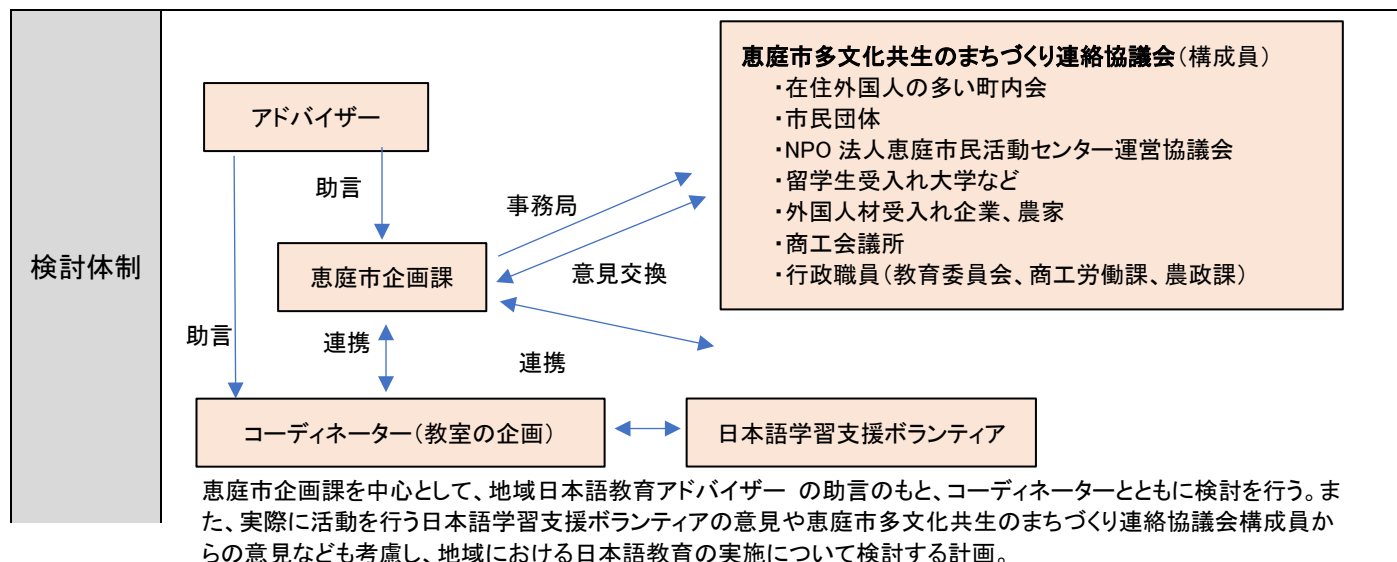
2.事業の内容

本プログラム取組年数	3 年目
事業の目的	日本語の学習だけでなく、地域住民とのつながりや、生活する上での課題に対する支援を得られるような地域日本語教室の立ち上げと、教室の安定的な運営及び自立体制を確立し、誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりを目指す。
事業の概要	地域日本語教室の安定的な運営と、自立を目指して以下の事項を行った。 ① 地域日本語教室を定期的に開催し、運営方法・体制を確立した。また、来年度の方針及び予算の確保を決定した。 ② 既存ボランティアなどから、地域日本語教室の企画運営及び調整に携わる人材確保を図った。 ③ セミナーや講座を開催し、新規学習支援ボランティアの人材発掘及び育成を行った。 ④ ヒアリングなどにより、日本語学習者や企業などのニーズを把握した（多文化共生のまちづくり協議会へ協力を依頼）。 ⑤ 把握したニーズを踏まえ、地域日本語教室の活動内容や教育プログラムを適正化した。 ⑥ 在住外国人の現状、やさしい日本語などのコミュニケーション方法、地域日本語教室の実施理由などについての広報を行った。
事業の対象期間	令和 4 年 6 月～令和 5 年 3 月

前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	- 日本語学習支援ボランティアの発掘・養成:1年目のボランティア養成講座に参加した39名に加え、2年目は6名から日本語学習支援ボランティアへの参加希望の連絡があった。また、ボランティアを対象としたスキルアップ講座を実施し、1回目(令和3年12月)に19名、2回目(令和4年3月)に9名、3回目(令和4年3月)に12名が参加した。また、令和4年1月20日にアドバイザーによるセミナーを実施し15名が参加した。 - 地域日本語教室の体制整備:地域日本語教室の立ち上げに関するボランティア会議を2回実施した。当初はボランティアの地域日本語教室に対するイメージが多様で話し合いにまとまりが無かったが、議論を重ねることで実施につきイメージを共有できるようになった。一方、ボランティア団体の名称はボランティアから募集し、投票で決定した。 - 在住外国人への広報:ボランティア団体のメールアドレス・SNS アカウントを作成し広報した結果、10名程度の外国人と連絡が可能となった。また令和3年10月にハロウィンイベント実施し、3名の外国人が参加した。 - 外国人材受け入れ企業へのヒアリング:令和3年10月に外国人材受け入れ企業7社に対し、電話で外国人材の様子、社内コミュニケーションの状況、日本語学習ニーズなどにつきヒアリングした。 - 地域への啓発活動:令和3年6月から毎月1回の頻度で計10回、地域情報誌への多文化共生に関するコラムを寄稿した。コラムを通じて複数名からボランティア活動への申し込みがあった。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	小井 奈月	恵庭市企画振興部企画課	主査	連絡調整、事業企画、広報
	杉本 要	恵庭市企画振興部企画課	スタッフ	連絡調整、事業企画、広報
	齊藤 美紀	北海道ハイテクノロジー専門学校	教員	教育プログラム検討
	式部 絢子	北海道大学	非常勤講師	教育プログラム検討、教室活動企画・準備
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	伊東 祐郎	国際教養大学専門職大学院	教授	継続(3年目)
	内海 由美子	山形大学 学術研究院	教授	継続(3年目)
	結城 恵	群馬大学 大学教育・学生支援機構 兼社会情報学研究科	教授	継続(3年目)

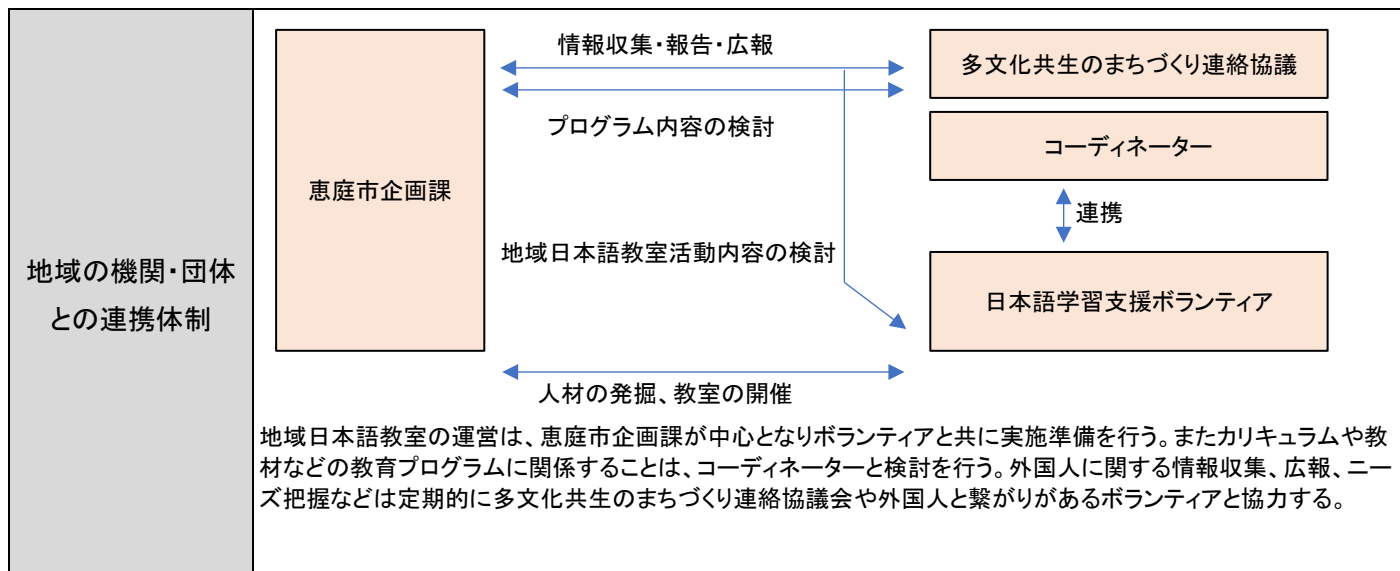
3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



所属(担当課)	職名	担当者名
恵庭市(企画振興部企画課)	主査	小井 奈月 ⇒ 吉成 祐輔
恵庭市(企画振興部企画課)	スタッフ	杉本 要
北海道ハイテクノロジー専門学校 IT メディア学科	教員	齊藤 美紀
北海道大学	非常勤講師	式部 絢子
恵庭市多文化共生のまちづくり連絡協議会	会長	寺崎 博裕

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
恵庭市	企画振興部企画課	主査	小井 奈月
恵庭市	企画振興部企画課	スタッフ	杉本 要
多文化共生のまちづくり連絡協議会	-	会長	寺崎 博裕
北海道ハイテクノロジー専門学校	IT メディア学科	教員	齊藤 美紀
北海道大学	国際教育研究部	非常勤講師	式部 絢子

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 4月	・住民に対する意識啓発(以降、継続的に実施) ・ボランティア養成講座の実施	・広報、連絡調整(以降、継続的に実施)	
令和4年 5月	・地域日本語教室の試行実施(1回) ・第1回学習支援ボランティア会議		
令和4年 6月	・地域日本語教室の実施(1回) ・第1回アドバイザー会議(オンライン) ・地域日本語教室のコーディネーター候補への打診 ・地域の関係団体(企業など)への実施報告・協力依頼	・日本語教育学習教材の検討 ・イベント立案・実施	★伊東 祐郎氏1回(遠隔) 結城 恵氏1回(遠隔) 内海 由美子1回(遠隔) ・年間計画に関する協議・助言

	・学習教材の検討		
令和 4 年 7 月	・地域日本語教室の実施(2 回) ・日本語教育プログラム、学習教材の検討・改善	・日本語教育プログラム、学習教材の検討・改善	
令和 4 年 8 月	・地域日本語教室の実施(2 回)		
令和 4 年 9 月	・地域日本語教室の実施(2 回) ・第 3 回アドバイザー会議(現地) ・地域の関係団体(企業など)への実施報告・協力依頼(多文化共生のまちづくり連絡協議会) ・実施団体情報交換会	・第 2 回アドバイザー会議参加 ・実施団体情報交換会参加	★伊東 祐郎氏 1 回(旅費あり) 結城 恵氏 1 回(旅費あり) ・地域日本語教室の視察及び人材確保・企業連携に関する助言
令和 4 年 10 月	・地域日本語教室の実施(2 回) ・空白地域解消推進協議会	・ボランティア養成講座の内容検討 ・日本語教育プログラム、学習教材の検討・改善 ・イベント立案・実施	
令和 4 年 11 月	・地域日本語教室の実施(2 回) ・学習支援ボランティアの養成講座(教室運営方法のブラッシュアップ)	・日本語教育プログラム、学習教材の検討・改善	
令和 4 年 12 月	・地域日本語教室の実施(2 回)		
令和 5 年 1 月	・地域日本語教室の実施(2 回) ・第 3 回アドバイザー会議(オンライン)	・第 3 回アドバイザー会議参加 ・日本語教育プログラム、学習教材の検討・改善 ・ボランティア養成講座の内容検討	★伊東 祐郎氏 1 回(遠隔) 結城 恵氏 1 回(遠隔) 内海 由美子氏 1 回(遠隔) ・現状確認、教材・企業連携・市の責任に関する助言
令和 5 年 2 月	・地域日本語教室の実施(2 回) ・第 4 回アドバイザー会議(オンライン) ・学習支援ボランティアの養成講座(対話型学習のやり方について考える) ・学習教材の印刷	・第 4 回アドバイザー会議 ・学習教材の検討・印刷	
令和 5 年 3 月	・地域日本語教室の実施(2 回【予定】) ・地域の関係団体(企業など)への実施報告・協力依頼(多文化共生のまちづくり連絡協議会)【予定】	・日本語教室試行実施のフォローアップ	★伊東 祐郎氏 1 回(遠隔) 結城 恵氏 1 回(遠隔) 内海 由美子氏 1 回(遠隔) ・現状確認、総括及び今後の方針についての助言

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	日本語ひろば「えにわ」		
外国人参加者について	[国籍]フィリピン 8 名、ネパール 8 名、インドネシア 8 名、ベトナム 5 名、中国 4 名、台湾 4 名、イギリス 2 名、オーストラリア 2 名、マレーシア 1 名、アメリカ 1 名 【実人数】 [属性]技能実習生や留学生が主な対象		
参加者数(内 外国人人数)	受講者 43 名 【実人数】 支援者 31 名 【実人数】 (日本語指導者 1 名、学習支援ボランティア 30 名)		
開催時間数	総時間 25.5 時間	内訳 1 時間×6 回、1.5 時間×13 回	

目標		・地域住民とのつながりや、生活する上での課題に対する支援を得られるような地域日本語教室 ・外国人と日本人が相互理解を深められるような活動内容の実施					
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2022 年 5 月 17 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動センター	10	食べ物について	・主催者あいさつ ・自己紹介 ・食べ物についてのトーク ・知っている言葉の書き出し	日本語指導者 1 名 学習支援ボランティア 13 名
2	2022 年 6 月 21 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民会館	4	日用品・薬を買う	・自己紹介 ・薬や薬局についてのトーク ・知っている薬の種類などの書き出し	日本語指導者 1 名 学習支援ボランティア 14 名
3	2022 年 7 月 5 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動センター	7	祭りの思い出	・自己紹介 ・祭りの思い出についてトーク ・クイズをつくって参加者で交流	日本語指導者 1 名 学習支援ボランティア 13 名
4	2022 年 7 月 16 日(土) 13:30-14:30	1	市民活動センター	1	食べ物について	・自己紹介 ・食べ物についてのトーク ・食べ物に関連した思い出トーク	学習支援ボランティア 7 名
5	2022 年 8 月 2 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動センター	6	恵庭の街について	・自己紹介 ・トーク「恵庭はどんな街？ 恵庭で行きたい場所は？」 ・恵庭お散歩コースの検討	日本語指導者 1 名 学習支援ボランティア 8 名
6	2022 年 8 月 20 日(土) 13:30-14:30	1	市民活動センター	2	ことば探しゲーム、学齢期について	・アイスブレイク(ことば探しゲーム) ・学齢期についてのトーク	学習支援ボランティア 7 名
7	2022 年 9 月 6 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動センター	10	防災について	・自己紹介 ・地震・防災についてのトーク ・防災を学べそうな活動の検討	日本語指導者 1 名 学習支援ボランティア 13 名
8	2022 年 9 月 17 日(土) 13:30-14:30	1	市民活動センター	9	ご近所・町内会って？	・自己紹介 ・「ご近所」「町内会」についてのトーク ・出身国紹介イベントを考える	学習支援ボランティア 11 名
9	2022 年 10 月 4 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動センター	4	名前	・自己紹介 ・自己紹介を多言語でやってみよう ・自分の名前についてのトーク	日本語指導者 1 名 学習支援ボランティア 7 名
10	2022 年 10 月 15 日(土) 13:30-14:30	1	市民活動センター	1	季節の行事や恵庭市の名所をやさしい日本語で紹介	・教室の広報活動についての説明 ・季節の行事や恵庭市名所についてやさしい日本語で文を作成	学習支援ボランティア 6 名
11	2022 年 11 月 1 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動センター	7	ハロウィン、死者・先祖のための祭りについて	・好きな事紹介 ・ハロウィン、死者・先祖のための祭りについてのトーク	日本語指導者 1 名 学習支援ボランティア 7 名
12	2022 年 11 月 19 日(土) 13:30-14:30	1	市民会館	1	マレーシア料理について	・マレーシア料理についてのトーク ・作り方の紹介	学習支援ボランティア 11 名

13	2022 年 12 月 6 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動 センター	4	ジェスチャーに ついて	・アイスブレイク「紙相撲」 ・ジェスチャーの違いにつ いてのトーク	日本語指導者 1 名 学習支援ボラン ティア 10 名
14	2022 年 12 月 17 日(土) 13:30-14:30	1	市民活動 センター	8	お正月につい て・来年のゆめ	・アイスブレイク「紙タワー」 ・各国のお正月、来年の目 標についてのトーク	学習支援ボラン ティア 13 名
15	2023 年 1 月 10 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動 センター	6	はつもうで	・初詣や神社についての説 明 ・初詣や甘酒を体験 ・体験についてのトーク	学習支援ボラン ティア 9 名
16	2023 年 1 月 24 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動 センター	4	市広報誌を見る	・自己紹介 ・市広報誌の紹介 ・市広報誌を読んでもみる。 内容についてのトーク	学習支援ボラン ティア 7 名
17	2023 年 2 月 7 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動 センター	6	困ったこと	・グループづくりゲーム ・困ったことについてのトー ク	日本語指導者 1 名 学習支援ボラン ティア 11 名
18	2023 年 2 月 21 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動 センター	4	行きたい、おす すめの観光地	・出身国のおすすめ観光 地、北海道の観光地につ いてのグループトーク	学習支援ボラン ティア 15 名
19	2023 年 3 月 7 日(火) 18:00-19:30	1.5	市民活動 センター	4	日本の四季につ いて	・四季についてのグループ トーク	日本語指導者 1 名 学習支援ボラン ティア 16 名

【主な活動】



第 1 回の教室開催の様子



好きな事紹介の活動の様子
(第 11 回)



各国のお正月、来年の目標に
についての会話の様子(第 14 回)

教室の立ち上げに 係る問題とその対 応策	- 土曜日の受講者数は平均的に少ないことから、平日の開催に変更し出席者数の動向を見ることとした。ただし週末での開催希望があった際には、週末の実施も検討する。 - 責任・負担を感じることから教室でのファシリテーターを担う学習支援ボランティアが少ない。そのためファシリテーターが教室進行を仕切る方法と、ファシリテーターの負担軽減のためファシリテーターが全体の流れをつくり、対話の流れは各グループに任せる方法の 2 つの方法で試行している。
----------------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
恵庭市多文化共生のまち づくり連絡協議会	令和 4 年 9 月 16 日 15:00-16:40 ※第 2 回は令和 5 年 3 月末実施予定	市内の外国人受け入れ企業、教育機関、町内会、市民団体、 行政で構成される多文化共生のまちづくり連絡協議会を実施 【9 月 16 日の内容】 ・令和 4 年度の恵庭市国際交流・多文化共生事業に関する 情報共有(恵庭市企画課) ・意見交換 ・講演会「外国人受け入れで期待される地域力」 国際教養大学 伊東 祐郎 氏

市民花壇の花植え	令和4年6月12日 10:30～12:00(1.5時間)	『日本語ひろば「えにわ」』を運営する「恵庭外国人サポートクラブ」による活動として、第39回全国都市緑化北海道フェア「ガーデンフェスタ北海道2022」開催準備に伴い、メイン会場(恵庭市)の市民花壇コーナーの花植えイベントを実施し、外国人27名、日本人12名が参加した。本イベントにおいては外国人受け入れ企業の協力の下、技能実習生が多く参加した。
かぼちゃランタン作り	10/22(土)13:30-15:00 10/26(水)18:30-20:00	『日本語ひろば「えにわ」』を運営する「恵庭外国人サポートクラブ」による活動として、外国人を対象とした無料のかぼちゃランタンづくりイベントを2日間実施した。(恵庭市青年会議所と共同実施) 両日合わせて16名の外国人と10名の学習支援ボランティア、7名の青年会議所関係者、5名の市関係者が参加した(延べ人数)。作成したランタンは、「えにわハッピーハロウィン2022」会場に飾られた。

【主な活動】



多文化共生のまちづくり連絡協議会の様子



市民花壇の花植えの様子



かぼちゃランタン作りの様子

5. 今年度事業全体について

進捗状況	- 地域日本語教室の実施は予定通り行うことができた。また、学習者数及び学習支援ボランティア数も概ね安定した。 - 教室運営に必要な役割があることを学習支援ボランティアの方々にも伝え、一定の理解を得た。また無理のない程度に教室運営において協力を得ることができた。教室でのファシリテーター役を積極的に担う方、対話のトピックについて提案してくれる方(外国人からも複数の提案あり)などが確認できた。 - 教材につき、新たな教材の必要性を検討した結果、既存の教材を購入・印刷することが、運営面の点から効率的且つ持続的であると判断したため、恵庭市独自の教材を作成することは無かった。 - アドバイザー会議を定期的実施し、疑問点や悩みについて適切な助言をいただいた。また9月の現地視察をとおして恵庭市の活動を確認していただいた。視察の結果、教室の雰囲気や人材について、良い評価をいただいたため、運営の方向性に間違いのないことが確認できた。
事業推進にあたり問題点と対応策	外国人学習者数につき、繰り返し参加してくれる学習者がいるため、参加人数は比較的安定している。しかし数名が来年度に帰国予定であることから、今後は学習者参加人数が減少する可能性がある。企業などに対して広報活動は継続しているものの、新規学習者数は僅かであるため、対応策が必要と感じている。地域日本語教室は、外国人材の日本語能力の向上、プライベートの充実、社会参加の促進に繋がることから、企業にとってもメリットがあることを丁寧に伝える方針である。
成果	- 地域日本語教室『日本語ひろば「えにわ」』を19回実施した。外国人98名(延べ人数)、日本人198名(延べ人数)が参加した。また、関連イベント(花植え、ハロウィン)を3回実施し、外国人43名(延べ人数)、日本人34名(延べ人数)が参加した。 - 地域日本語教室『日本語ひろば「えにわ」』の運営団体「恵庭外国人サポートクラブ」の代表者、会則を決定し、運営母体の強化を行った。 - ボランティア養成講座を2回実施(11月:教室運営方法のブラッシュアップ、2月:対話型活動について考える)。外国人1名、日本人18名が参加した。【延べ人数】 - 講演会を実施し20名が参加した。

地域の関係者との 連携による効果	- 多文化共生社会のまちづくり連絡協議会では、定期的に多文化共生事業(地域日本語教育事業を含む)に関する情報共有を行っている。今年度の協議会では、構成員の町内会から多文化共生事業に関する情報の共有を、すべての町内会にも行うことが有用だとの意見が示され、多文化共生に関する意識の醸成が進んでいることが確認できた。 - 多文化共生社会のまちづくり連絡協議会を通じて教育機関(私立大学)と関係を構築し、同大学において地域日本語教室の宣伝を行った。その結果、新たに留学生 3 名と大学生 2 名が地域日本語教室に参加した。 - 学習支援ボランティアの 1 名が中心となって組織した市民団体が、恵庭市まちづくりチャレンジ協働事業を活用し日本語スピーチ発表会を開催した。外国人 7 名、日本人 50 名程度が観覧した。後日、交流会を実施し、外国人が着物、茶道、けん玉、郷土踊りなどを体験した。恵庭市企画課は協働担当課として広報支援などを行った。 - 地域の関係者が恵庭市まちづくりチャレンジ協働事業を活用し、外国人の希望者に日本語能力試験(JLPT)対策を行う活動を行った。恵庭市企画課は協働担当課として広報支援や、JLPT 対策を行う日に合わせて日本語交流サロンを行い、地域における日本語教育推進を図った。 - かぼちゃのランタンづくりイベントでは恵庭市青年会議所と連携し、参加料の無料化、講師派遣の協力を得ることができた。
コーディネーターの 主な活動	① ニーズの調査(5H) ② 体制整備のための調整(20H) ③ 人材育成のための調整(15H) ④ 日本語教室開設及び運営のための調整(30H) ⑤ 教材作成に向けた調整(5H) ⑥ その他(30H) (具体的な内容: 広報活動 30H)
アドバイザーの 主な助言	- 実施団体の役割と責任について 実施団体職員は多文化共生分野での課題及びその対応策を取りまとめ、市の理事者・部長などに報告することが望ましい。報告の中では地域日本語教室は単なる日本語学習・地域住民との交流の場ではなく、「外国人の拠り所となり、彼らの抱える様々な課題の把握とそれに対する支援を検討できる場所」としても機能することを強調することが良い。 今後の教室運営で一番重要なことは、「市は教室の運営をボランティア任せにしない」こと。どのようなときも、市は「ボランティアが多文化共生推進について意見できる場」をつくり(例: 月一回程度の意見交換会)、市民が参画できる機会を提供すること。また「地域日本語教室の場所の提供」と「教室や意見交換の場でのファシリテーション役」を担う事を怠ってはいけない。 - 運営面について ボランティアの活用(役割の分担)については依頼の仕方が重要。すべてをお願いするよりも、一部を手伝ってもらうようなやり方がよい。 地域日本語教室を実施した後は短時間でも、日本人だけで振り返りをしたほうが良い。振り返りで、参加者全員が意見を言える環境を作り出し、風通しの良いグループとすることが必要。その日に得られた情報(学習者のニーズなど)を共有するのも良い。(毎回同じボランティアと活動するとは限らないため) - 企業など外部との連携について 企業に対しては、担当者を飛び越した話題(例えば「外国人のための日本語教室」などと伝えるアプローチ)にすると、担当者に響かないことになる。そのため「受け入れ側でなにか問題はないか?」、「どのような手当をしているか?」、「市として何かサポートできることは無いのか?」などと聞き、担当者の意見を引き出すことが必要。また、訪問する際は、商工労働分野担当と一緒に赴くと市の本気度が伝わる。さらに外国人材の取り合いが始まってくると考えられるので、人材確保という面でも産業の視点を持って話すことが大切。

今後の課題	- 今年度で本プログラムは最終年度となり、来年度からは独自に地域日本語教育を推進することになる。現在まで、疑問点はアドバイザーやコーディネーターに相談することができたが、今後は相談できないことが課題。しかしアドバイザーの協力により、北海道において地域日本語教育を推進する団体、学識者と繋がることができたため、今後はそれらの団体・個人と連絡を取れる体制を維持する方針である。 - 今後も市の多文化共生事業の一環として地域日本語教育を推進する計画であるが、現時点では市内において、日本語教育おける市の責任や地域日本語教育の活動実績などの周知が十分ではない。事業を継続的に行うためには市内周知を徹底し、市関係者の理解を得る必要がある。 - 地域日本語教室運営体制の充実・安定のため、学習支援ボランティアの運営面への参加を期待する。しかし、個々人で活動が可能な時間・曜日などが異なることから、運営面への参加について議論が深められていない。そのため今後も学習支援ボランティアとの対話を継続する必要がある。 - 地域日本語教室に参加できない外国人（日本語レベルが不足、時間や交通手段の問題）に対する対策が十分に検討できていない。ニーズ、市の資源（人的、物的、予算など）、市のビジョンに基づき、どのような対策が取れるか検討を開始する必要がある。 - 企業に対しては広報、報告、依頼を行ってきたが、十分な連携が出来ているとは言い難い。市の方針と企業のニーズが合わないことも考えられるため、引き続き丁寧に企業関係者と連絡をとり続ける必要がある。
今後の予定	- 令和 5 年度 4 月から地域日本語教室『日本語ひろば「えにわ」』を開催する。（月二回の頻度で実施するが、開催頻度、曜日、時間などは適宜柔軟に対応する） - 一年に 1～2 回の頻度でボランティア養成講座を行い、既存ボランティア及び新規ボランティアの育成を行う。また定期的に会議を開催し学習支援ボランティア間での話し合いの場を設け、さらに活動に対するアイデアは常時受け入れる。 - 参加者（学習者、学習支援ボランティア）の交流を深めるため、定期的に季節のイベントを行う。一年に 3 回程度行う予定。 - 多文化共生のまちづくり連絡協議会を年 2 回行い、町内会、企業、教育機関、市民団体等との連絡体制の維持し、また多文化共生事業（地域日本語教育を含む）につき意見を求める。

本件担当： 恵庭市企画課 国際交流・多文化共生担当